

われわれのグループには制約と  
いったものが一つない。制約は  
ないが共通した姿勢をもっている。  
それは八自分自身にとって今日  
の書とは何かVという問いかけ  
である。この問いかけを起点とし  
て各自の仕事ぶりはいくつの方  
向へ分かれていく。

われわれの仲間の多くは、現代  
文学(詩・俳句・短歌・文など)

ある集いその足あと  
現代書作家集団  
村上翔雲



県民会館での第一回現代書作家集団展

くしている。現代と自分のかかわ  
りあいを考え、歴史的必然をおも  
うならば当然なこの帰趨が、もつ  
と率直に書壇に受け入れられるべ  
きであった。ぼくたちの仕事は、  
がんめいなる字かきどもよりは詩  
人・歌人・俳人・画家など他の領  
域の人たちに支えられてきた感が  
深い。

われわれのグループのある者は

「美術構力機構を粉  
粹しなければ表現の  
自由はない」と叫ん  
でいる。また、文字  
性を離脱した作品を  
発表するものもある。  
世代もさまざま  
だ。下は十八才から  
上は四十八才。職業  
だって高校生・大学  
生・美術評論出版活  
動をする者・教師・  
プロ書家・国鉄の助  
役さん・会社員等々。

を素材とした書表現に力を注いで  
いる。これは、在来の古典文学(漢  
詩文・和歌など)を素材としたも  
のだけが書のすべてと考えている  
現書壇の主流に大きな動揺を与え  
ている。いずれ、現代文学を素材  
とした書表現が書の主流となる日  
も近かるう。

ぼくたちは二十年近くこの仕事  
をやってきましたますこの感を深

書歴も、すでに日展に十回近く入  
選している者、墨象作品(世間で  
は前衛書といっている)で注目を  
あびている者、社団法人日本書芸  
院(関西における総合団体)の審査  
員をやっているものも数名いる。  
むろん展覧会などはじめてという  
人もある。

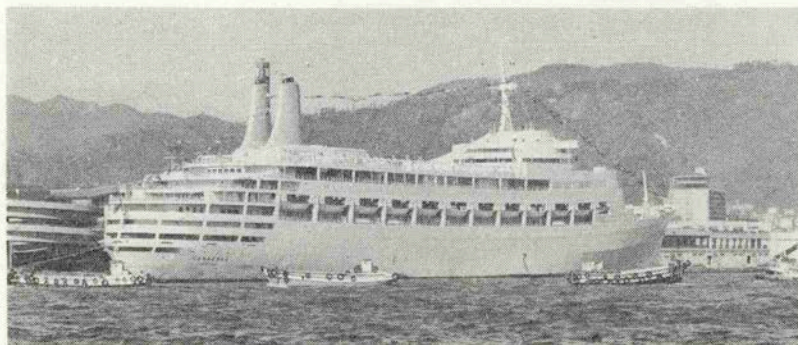
さて、われわれのグループは昭  
和四十四年の春に現代書作家集団

と名づけて、足立告陶・上野賀山  
・川合豊彦・村上翔雲・和田青篁  
・渡辺青華の六名によって結成さ  
れ県の文化団体の一つとして登録  
された。わずかに六名で出発したが  
一年半を経た現在二十三名とな  
り、今後急激に膨張しようとして  
いる。この一年半の仕事ぶりを紹  
介すると、四十四年の初夏にサン  
チカの三菱ホームコーナー内ギャ  
ラリーで「詩と書十二人展」四十  
五年はじめに同じ会場で第二回展  
を開いた。いずれも連日一、〇〇  
〇人以上の観客を得て、同ギャラ  
リーの平均的観客数一日五〇〇人  
をはるかに上まわった。そして去  
る十一月には県民会館で「現代書  
作家集団展」を開いた。この展覧  
会では約六十点の作品を予想して  
いたが一〇〇点近い大作がもちこ  
まれ、あの大ホールを押し盛況で  
あった。以上三つの他に、子ども  
の詩書の領域に手を染め「小さな  
目・子どもの詩書展」を開くもの、  
個展やグループ展を東京・京都・  
神戸などで次々とやっている。も  
う、この火の手は消そうとて消せ  
るものではない。四十六年には  
「現代書女流展」その他グループ  
員各自の計画がめじろおしだ。現  
代書活動は神戸を起点として各地  
で花ひらくことだろう。

△連絡先V

西宮市常磐町一公住五二六 村上翔雲方

# キャンベラ号 英国豪華客船 (45,000トン) 船旅へのお誘い



優雅な楽しい船旅  
は生命のセンタク!!  
神戸っ子ならではの  
シフトラベルです  
ぜひご参加を!!

## ハワイ・太平洋コース

3月10日～3月22日(10日間)

東京—ホノルル—横浜—神戸

★旅行総費用 ￥278,000(ファーストクラス)

## 春の香港・マカオコース

3月23日～3月29日(7日間)

神戸—長崎—香港—マカオ—神戸

★旅行総費用 ￥170,000(ファーストクラス)

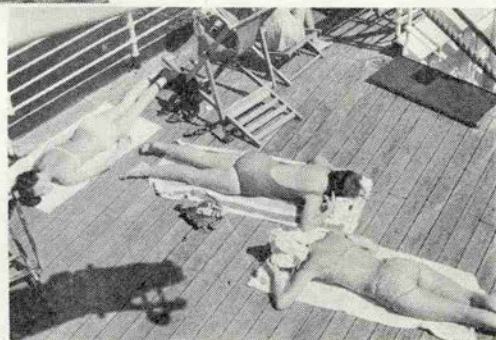
￥150,000(ツーリストクラス)

船・ホテル・食費・飛行機代すべて含む

- かわいい旅程案内状ご入用の方は神戸っ子まで

第4回 神戸っ子クルーズ 定員各30名

メ切日は2月29日までお早くお申込を!!



お申込みは

主催 月刊神戸っ子編集部

神戸市葺合区八幡通5丁目9-6(K・Eビル4F)

電話 (22) 7037・(22) 8072

協賛 ドッドウェル・トラベル・サービス

大阪 大阪市西区靱1丁目102

辰己ビル1F 電話 (203) 5151

神戸 神戸市生田区京町72(クレセントビル内)

電話 (39) 8031



謹賀新年

伝統と格調が一層親しみやすくなった  
オリエンタルホテルチェーン  
今年も皆様のスイートホームに!!

オリエンタルホテル

神戸市生田区京町 TEL 078 338111

六甲オリエンタルホテル

国立公園六甲山上 TEL 078 890333

京都オリエンタルホテル

京都市東山区五条大イバス TEL 075 5917221

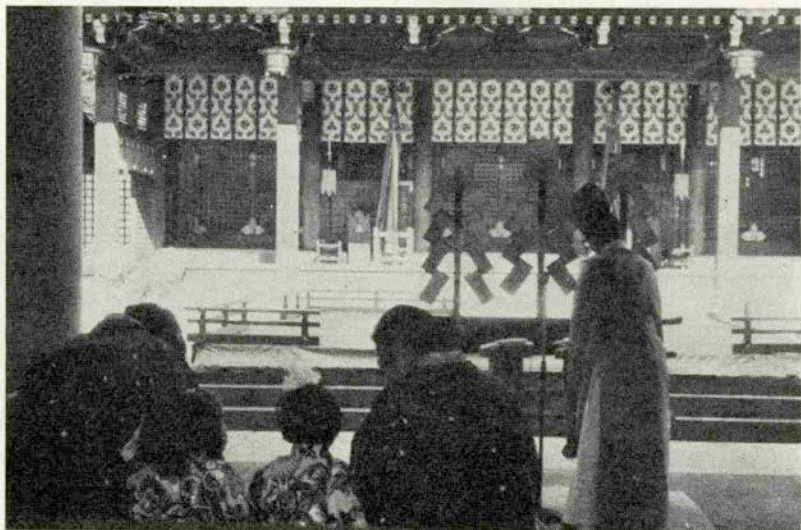
1971年

□れんさいずいそう  
XX

# えびすさん

—西宮哀愁—

林田 重五郎 (随筆家・写真も)



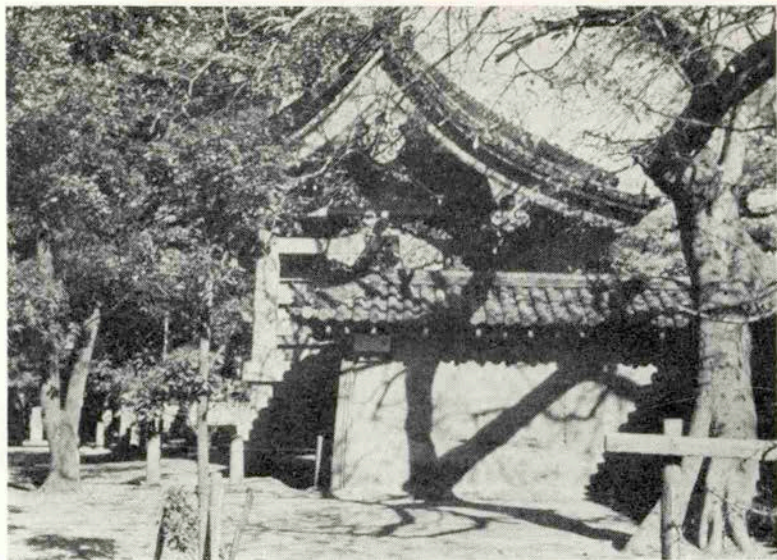
本殿は鉄筋に建てかわった

西宮のえびすさんは、わたしのうぶすなの神さんである。富貴の神の氏子でありながら、金に縁のないのは、申しわけもない。戎さんは日本の到るところで祭られているが、その中でも、特に西宮の戎さんが有難いように思われるのは、ひいき目であろうか。

正月が終わると十日戎、西宮の少年たちはワクワクした。八日ごろになるとえびすさんの——西宮語で正確に発音するとエベッサンの——境内の西南部を占める相撲場に、大きなテントがならぶロクロ首といった見せものもあれば、のぞきメガネもある。なかでも、あこがれの的はサーカスである。

「空にさえする鳥の声——」の天然の四季の音楽が胸をしめつけるようにひびきわたる。天幕の間から曲芸団の少女たちがチラチラ姿を見せる。人取りにさらわれたそうだった話を真に受けて可哀想にな、とながめる。

九日の宵戎ともなれば、いよいよ開幕だ。真っ先に入場して、ああ、あの少女は去年も来ていたが今年はどうな芸をするのだろうかとうと期待の胸をふ



表門を南から見たところ、朱色が緑に映える

くらませる。小づかいは、そう豊かではない。一回見終われば、あとは相撲場をウロウロして、流れて来る音楽に天幕のなかを隙見する程度である。十日の本戎も、十一日の残り福の日も、大群集にもまれ、ワタ菓子などをかじりながら、エベッサンに皆勤する……そんな興奮の味を、何十年振りに味わったのは去年の万国博へ初めて訪れたときだった。祭りは、やはり人間をワクワクさせるものではある。



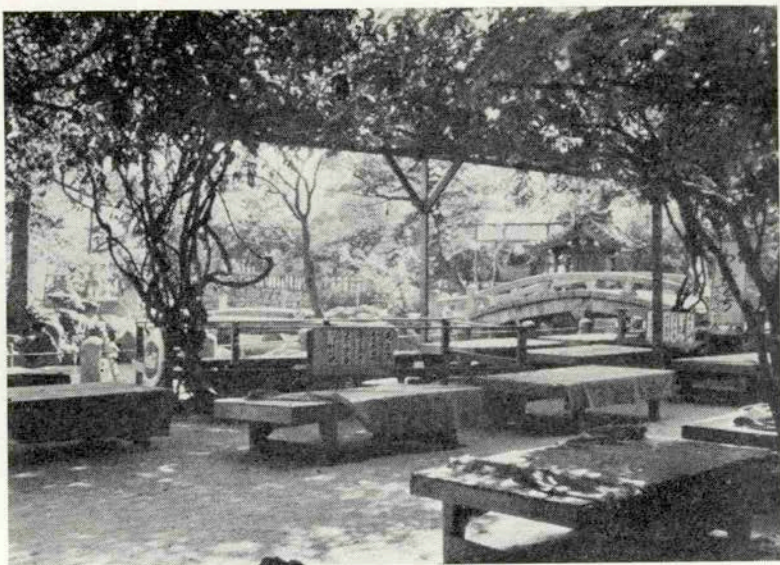
異人館を描きつづけて有名な小松益喜さんが、西宮の戎さんをたくさん書かれて、西宮で個展を開かれたのを拝見したことがある。

特に表門のどっしりした朱の色が美しかった。いや子供のときから見馴れながら、あの門のすばらしさに気づかなかったのを、この個展で教えられたわけである。

こんど久し振りに参拝して、この表門を、正面から、斜めから、南横からためつすがめつ眺めた背景が緑であるだけに朱の色がひときわ引き立つ。そして門の奥行が案外深いのに驚いた。それが重厚に感ぜられる理由であろう。

広い境内で、あちこち落葉の煙があがっていた。幅の広い参道は本殿の方へ右折するが、まがらずにまっ直ぐゆくと思いいなつかしい相撲場に出る。そのころは大きなお盆型で、底に土俵があった。見物人はお盆の中の草の上に坐って見下した。

いまは盆がなくなつて平面化し、グラウンドと呼んでもよいような広場になっている。西南の隅、大鍔塀（ねりべい）の内側に、住宅が建っていた。住宅地が少いときだから無理もないが、片隅とはいえ、戎さんの境内にも住宅とは……との感じがする。戎さんも戦火に会ったが、本殿は鉄筋で昔以上に立派な姿になっている。森も当時は木が少くなかったように思えたが、年とともに深さを増して来た。本殿の前の池も石の橋も、茶店のしょうぎも、フジのたなも幾十年前と同じ形である。老人や子供たちが昔と同じように、のどかに楽しんでい



本殿の前の池のほとりに昔ながらの茶店がある

私有財産とはいにくいわげだから、經理が成り立つのならば、やはり市民のこのころの公園、このころの広場であるのがゆかしい。ちまたの中の緑の森、西宮に昔の形の戎さんが厳存するのはありがたい。

◇ そのころ西宮はまだ武庫郡西宮町だった。国鉄の北側の鉄北地区は、阪急神戸線が快速で走っているだけで一面の田んぼだった。国鉄と阪神電車の間にも人家は少く第一阪神国道が建設され、六湛寺にあった広大な墓地が移転して官庁街になってから面目が変わった。

当時の町の中心は、戎さんの表門を東に走る旧西国街道、このあたりの名では本町であった。いまは第二阪神国道の北側に沿って残っているが、おっとりとした感じである。本町以南は酒蔵が多い。そして江戸時代は酒を積み出した港がある。海浜にお台場と呼ぶ砲台が残っていて、維新のころをしのばせる。

いま西宮は阪神地区では数の少いスモッグのない住宅地として、四十万近い人口になったが、思い出されるのは約十年前の、石油コンビナート反対の市民運動である。海岸を埋め立て石油会社を招こうという当時の市長の案を阻止したわけだが、もし実現していたらどんな公害が起こっていたであろうか。

そしてこんどは新しく、芦屋西宮沖空港の話がまき起こっている……。

る。  
戎さんのすぐ南は第二阪神国道である。その上は阪神高速で、上も下も息の抜けない世界だ。それに比べてこの境内は、こころの公園になっている。

◇ 神社も世とともに変わって、神前結婚式の多いところ、交通安全祈願でにぎやかなところ、お初穂料などの名目で駐車場を開いているところとさまざまだ。歴史的にいつても、神社は神主さんの

□ずいそう

# めずらしきと

# 思う心が花

観世栄夫

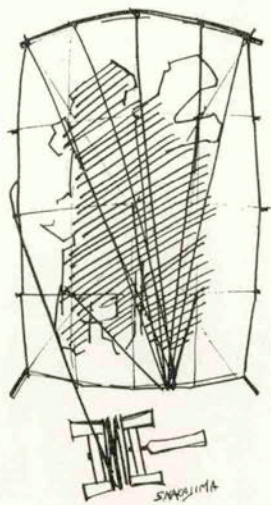
え・中島節子

能——すなわち、日本の伝統芸術、古典として完成された芸術のように思われているが、それを実際に演じる立場として考えると、これはまことにむずかしい問題である。

なるほど、能という芸能は、六百年も昔に、観阿彌、世阿彌というすぐれた親子が出、その当時流行の、小哥、曲舞、その他の芸を己れの猿楽の芸の内に取り込み、また先行の芸能田楽の名手達の影響をも多分に受けて、今日見られるような、芸能の様式を創り出したのである。だが、それ以来、内容、そしてそれにもなう形式の発展、展開はほかの芸能にゆずって、その残された形式の内側での洗練という事に、もっぱら力がそそがれて今日に至っている。ことに江戸時代になってからは、幕府の式楽としての役割を担い、特殊の場合を除いては、一般庶民の目から隔絶されたところで演能が続けられて来た。そのため、ことさら技法としての洗練という方面にその力が向けられ

舞台芸能としては、非常に片輪なものになって行つた。

たとえば、現在の謡は、一般の日本人にもわかりにくいということがよくいわれる。謡のまねをやらせると、口の中にもつたもごもごとのわけわからぬ発声をするが、このようになってしまったのも、江戸時代以来何百年も、「熊野」なら「熊野」、「松風」なら「松風」、「道成寺」なら「道成寺」として、物語の筋も、謡われる謡曲の文章をもよく知りつくした相手に、知りつくした演技を見せるものだから、演じ手としては、一句一句の文章の文句が聞き取れるということよりも、その一句を謡う節廻しの技法がより巧みであるか、その一つ一つの動きの意味をわからせるというよりも、いかにみがき込まれた美しさを見せるかというところに、その大方の精力をついやして研究し、残し伝えて来たのである。だから、現代の、節も文章も知らない一般観客には、その詞章を聞き取



り、見出すことは、大変に困難なことであり、梵語のお経を聞くのとたいした変りないように思われるのもっともだと思ふ。

と、このように考えて来ると、われわれが六百年の伝統を守って来た——ということはどういうことになるのであろうか？

世阿彌の頃の能は、今の能のように、謡の文句が聞き取れぬということはまずあるまい。その演じられる曲が、ほとんどの観客にとって、初めて接するものだったのだから。世阿彌も、その能の作り方を解いた著書の中に、耳に入りやすい例えば有名な和歌などをどのようなところで用いれば、観客の心をとらえることが出来るかということを書いてある。また演じ方を教えたところではまず謡の文句が観客の耳に入ったところへ、後から動きが目に映るとわかりやすい——などといっている。このことから、その謡うことばが観衆の耳で聞いてわかるということに、大変心を使っていたことがはっきりとわかる。それが長い歴史の中で、現在のようになって来てしまったものをどのようにしてわれわれは受け止めたらいのだろうか。技法としての洗練さというものも、もちろんなおざりにするわけにはいかないが、その洗練された技法の中には、瑣末な小細工に墮したものがあるのではなからうか。

このように考えて来ると、伝統を守ると一口にいても、またいわれても、まことに難しい仕事である。

その上、演ずる役者の生活環境も違って来れば好むと好まざるとにかかわらず、芸の質というものが変わって来てしまうものである。

明治の頃の古考の写真などを見て、僕が知っている故名人梅若万三郎、故野口兼資、故桜間金

太郎といった人々でさえ違って来ている。生な武士道の持っているような緊張感から、その扮する役を通しての迫力というものによって来ているように思える。

また観客の目も変らぬはずはあるまい。わかりやすい例を、歌舞伎の「勸進帳」なり、「娘道成寺」などにとって見るとしよう。僕らのもっている「勸進帳」のイメージは、歌舞伎座の十何間も間口のある舞台に、二十人からの長唄がならんで何十キロという電光が輝いている舞台しか想像出来ないが、もし間口五間の舞台に上下の袖がついたとしたら、とてもそんなにきらびやかにならぶことは出来まいし、電光がなかったとすれば、現在の華やかさはとても創り出せない。従って、扮装その他の方法、演技の方法も、もちろん違って来ってしまうだろう。

五間の間口の中に、団十郎と菊五郎の弁慶と富樫とが対立すれば、おのずと芝居小屋いっばいに見える。つまり客席の方へあふれるような力を感じる事が出来ただろうが、十八間もの舞台のすみずみまで明るい劇場とは、おのずと演技の方法が変ることはもちろん、観客の観るイメージも物理的な必然として変わって来ていることを感じる。

こう極く表面的なことを考えただけでも、古典を現代演じるということは、大変困難なことである。が、困難だといっているわけにもいれない。観阿彌、世阿彌の創造的な息吹きを、現代の能の中に取り込むことが出来るだろうか？

めずらしきと思うが花なるべし——と世阿彌がいつている。めずらしき——花——創り出すことの美しさ。——考えさせられることだらけである。

△俳優・演出家△



●芸術祭優秀賞を受けた宝塚歌劇団スター

## 真帆しぶき

### ファッション・インタビュー



<神戸はとっても好き。何かしみじみとしたものがあるのね>

花々とお人形にうずもれそうなカラフルなカラフルなお部屋。壁にかかっている絵までお花なんです。ちょうど前々日のリサイタルに寄せられた花籠がいっぱい置かれて、芳香をはなっています。

「ゴメンナさい、お待たせして」風のフェアリーのように入って来られました。なるほど、とその時うなずいたのです。本誌十月号に随想を寄せて下さった静岡潮太郎さん（宝塚歌劇ショー・デザイナー）にいわく「どんなにエキセントリックなトップモデルであろうと現代そのもののワイリングで見事に着こなす。今日の流行にマッチしたスターは真帆しぶきをおいて他にない」が実感としてわかったのです。以下ハスキーな彼女のファッションナブル・トーク。

宝塚の人の洒落って独特なものがあるんじゃないか

しら。映画スターともファッション・モデルとも違うし何ていうのか、流行を行くお洒落してるんだけど、どっかお嬢さんのニオイがあるとでもいうのかしら。でも安い給料の中でお洒落するってとっても難しいと思うのよ。上級生でも見ると、ほんとお洒落な人っていうのはお金使わずにうまいこといるんなもの使ってお洒落していますね。

私のお洒落は、人の着ているものは絶対イヤという主義だから、自分のイメージをいって作ってもらいます。東京では花井幸子さん、関西では京都の古いファンの方にお願ひしています。私の場合、普段の感じにどっか派手さをプラスしたものを作っておくと、普段にもまたちょっとTVに出たり舞台に出たりという時に重宝しています。着るものでスゴク気分が左右される方で、普段はほとんどパンタロンはいてるので、動作も自然男っぽく

なってしまう、あぐらかいたり、足ひろげたり、お稽古場なんかではスゴイ恰好でしょ。

ですけどやっぱり、夜なんかマキシ着て出かけたりすると、形というより無意識の内にしぜーんに体の中まで女らしくなるのです。だから昔の人が長いドレス着てただけで女らしいスタイルになるっていうのがわかります。ミニはさんざん着て着すぎちゃったけど、私はすごい寒がりやさんだからマキシはやってホントーニ良かったと思ってるんです。

それでもマキシは三年ぐらい前から着てました。一昨年パリへ行った時、マキシはまだロンドンではやってただけでパリではまだ。そのパリから帰ってお正月新宿コマへ出たら、新宿の街を男の人がマキシ着て歩いていった。日本人っていうのは早いなあとビックリ。でも日本の男性もイカスようになっちゃったなーと感心しました。



ヨーロッパやアメリカには何回か公演に行きましたが、アメリカ人というのはパッと見た瞬間派手な赤の感じがするけれど

パリの人は皆とつても地味。地味だけれどとにかく他の人とは違うセンスの冴えが感じられるのです。パリジェンヌの買物一つ見てもおかしいですよ。ブラウスなんかちょっと大きくても違う違うっていつて、日本人だったらちよつと大きくてもいいなと思つたらパッと買つてしまふけれど、彼女たちはピッタリ合うまで妥協しないわけ。お店の方もサイズがすごい種類あって、自分の気に入るまで何回も何回も何回も着て良いのです。

その代りいったん買うと返品は絶対きかないし、お互いにキビシイのです。私も体にフィットしてないと着ても気持ち悪くなっちゃう方だから、パリへ行くと必ずコ

ートかセーターを買ってきます。コートはシルエツトがまるで違うし、セーターはとくにトックリの感じから袖付け、胸もとがとでもピチツとして気持ち良いのです。

舞台衣裳のときも私はウルサイんです。仮縫い一点につき忙しくても必ず一時間ぐらいかかります。静間さんなら静間さんのデザイン画見ながら、そのイメージと役柄の動き具合と私の体とにピッタリ気に入るまでやらせます。絶対妥協はしないかわり、舞台に出たら、役の動きの変更がない限り文句はいいません。私の舞台の場合だったら十何着着るので、休憩時間、御飯も食べないで三日間ぐらい続けるから、とつてもシンドイわけ。でも一カ月間着なければいけないと思うと、お洒落のためなら少しぐらいの苦労はします。

去年はミニ、ミディ、マキシと、とても混乱の時代だったけど、今年のファッションはもっと多様化した形で定着していくんじゃないかしら。私は何がどんなにはやっても自分に似合わないものは着ないと思う。それにしても今はものすごく

いろんなお洒落ができて、とてもステキな時代ですね。男の人でもちよつと前だったら信じられない服装してそれがまた合つちゃうのね。中には全然似合わない人もいるけれど、カッコイイ人が多くなりましたね。年とつた人は年とつた人の良さがあるけど、若い時代っていうのは二度とないから、自分のやりたいことをやったら良いと思うのです。会社行っている人でもラフな時間というのはあると思うから、その時存分お洒落するとか。それで心も開放されるんじゃないかしら。

もつともつとファッションにも冒険的にとりくんで、お洒落を生活いっぱい楽しんだらと思うのです。

5階の宴会場“パール”でなら  
150人までOKなんですから。  
シックなムードねえ。  
みんな美しく見えちゃうワ。

5階のレストラン  
“エメラルド”も  
エレガントだワ。

落ちついたところなら  
13階の和風レストラン“竹亭”だわ。  
第一眺めが素晴らしいし。  
名物「しゃぶしゃぶ」も  
イカすわヨ。

緑の山、ひろがるエキゾチックな港風景  
神戸タワーサイドホテルならではの、ゴージャスな雰囲気はヤングレディにぴったり。パーティーをバラエティゆたかに演出いたします。  
宴会予約係 ☎(直通) 0433



お嬢さま!  
謝恩会・クラス会を  
素晴らしくなさいませんか。

阪神 ホテルチェーン



# 神戸タワーサイドホテル

神戸市生田区波止場町一番地(中突堤) TEL 神戸 (078) 35-2151<大代表>

□特集①★市民ホール／座談会 その①

# 神戸にこんな市民ホールを

竹中 郁（詩人）

小島輝正（神戸大学文学部教授）

阿木五郎（道化座）

水谷頴介（都市計画・設計家）

編集部 今度、神戸市が大倉山周辺に市民ホールの建設を予定していますので、新年号から誌上を通していろいろな方のご意見をお伝えしていきたいと思えます。今日は、今までのいろんな市民ホールを検討してみても、これからの神戸市にはこんな市民ホールが必要だ、といったお話をお聞かせ下さい。

★大倉山は戦前からのゆかりの地なんです

竹中 今度大倉山周辺に市民ホールを建設するということですが、あそこは戦前、昭和十年代だったと思います。一度大公会堂をつくろうということで設計図もでき、資産も二百万円程あったのですが、戦争でダメになったことがあるんです。そういうゆかりの地なんです。ですから「市民ホール」といえば「大倉山に」ということもあるんですが、神戸の開発のうえで、神戸駅周辺がちょっとなかだるみの状態なので、市としてもあのへんに市民ホールをつくって総合的な地域開発をやりとうといった気持ちもあるんじゃないでしょうか。

阿木 山陽電車の兵庫駅の跡に建てるのか、神戸駅の裏とかいろいろな案があったようですが、結局大倉山周辺ということになったんですか。

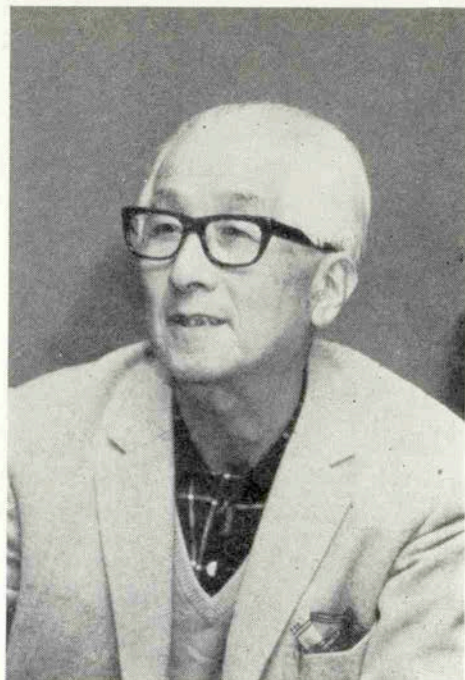
竹中 そうらしいですね。ところで、市民ホールという

ものはどうしてもなくてはならないものなのか、それとも国際会議やその他の既存の施設をもっとうまく利用し方がいいのか、どうなんでしょう。

水谷 そうですね、一般市民の方の気持と、プロとしてそれを実際使用される方の気持とはだいぶズレがある実際に活動していらっしゃる方々にしてみれば、自由に使用できるパブリックな施設がほしいということを強く主張されますが、一方一般の市民の方にしてみれば、そういう施設ができたからといってかならずしも自分の文化的な生活にうらおいがでたり、満足したりするといったものでもないと思うんですが……。そのへんの矛盾といったもののなかでどここの市民会館も揺れているんですね。それからもう一つ、市の行政にとって市庁舎が必要なのと同じように、市民にとっても市民会館とか公民館活動とかいったものが必要欠くべからざる施設なのかどうか、大きく分ければこの三つぐらいが市民ホールの位置づけとしてうかんでくるようですよ。

小島 その三つがうまく統合されれば一番理想的でしょうね。

水谷 でも統合というよりも、もっと新しい系統で位置づけていくことも考えられますね。今までの統合という形ですと、いくつもの実例が示しているように非常に



竹中郁氏

なければ。  
水谷 大ホールというのはいろいろとかいにくいですがからね。大学の講堂なんというの、入学式とか卒業式以外にはほとんどつかっていない。  
小島 名古屋は立派な大きなものを建てましたが、ほとんどつかってないですね。建てたのはトヨタなんですが、維持費までは面倒みてくれないでしょ。そうかといって大学には予算がないし、半日も暖房すれば何万円かかるものから、ほったらかしてもあましてるんです。(笑)

中途半端な形でセットされてしまう。

竹中 市民ホールは明石、姫路にできましたね。尼崎にも今度できるんですよ。

水谷 それに西宮が比較的大きなものをつくりましたね。

小島 あそこは公民館も多いですね。神戸は最後までにどんなものをつくったらいのか、その方向づけが難しい。

竹中 ホールというものは座席が三千あれば「商売」しやすいそうですね。営業として成り立つということでしょうが、二千ぐらいになるとやりにくいそうです。たとえば音楽ファンにしても、座席が三千シートあれば「行こか」という気になるが二千以下だと小首かしげて来ないそうなんです。だから音楽会なんかしょっちゅうするというんだったら「三千」という数字がメドになってくる。しかし神戸で三千ものシートをつくって、果して人がそれだけ集まってくれるかどうかですよ。まあ、市がやるので営業じゃないからかまいませんけどね。運営費が年々赤字でもかまわないというんだったら話は別ですが、いやそれじゃあ困るといふんだったらちよっと考え

★日本の公共施設は建てる前と後がない

阿木 私は建てたあとの問題が非常に大きいんじゃないかと思うんです。建てたからそれで、ハイ、おしまい、というんじゃないくて、一つの文化事業として毎年ちゃんと十分な予算を計上し、建てたあとに力を入れてほしいものですね。また、使用料が安いからといって興業的なものばかりに使われ、本来の市民が利用できないというようなことになっても困りますしね。

水谷 日本の公共施設はたいていそうなんです。建てたからハイ、おしまい、というだけでなく、建てる前もありません。ただ単に「建てるだけ」、というのが大きな問題ですね。建てる前、つまり建物がなくなっているんなら文化活動はできるわけです。たとえば美術館なんかでも、建物がなくなっているんなら研究はできません、そうしているうちに、こういうことがやりたいということもでてくるでしょうから、そうすればそれに合せた美術館づくりを進めていきます。こういったことがたいせつなんで、事前の盛りあげも何もなくて、ただ建てればそれでいいというのがやはり一番問題です。今度の市民ホールにしても、いろんな実際の活動をして

いらっしゃる方からみれば、「ないから必要だ」という、その「必要度」は分るんですが、それがどういう形で必要なのかということがまだはつきりしてないと思うんです。

阿木 市もアンケートをとったり、建設に関する委員会などをつくったりはしているようですがね。

竹中 それは当然のことですね。阿木さんなんかはいろいろ地方の公共施設を利用して、よく御存知でしょうが、成功している例というのはありますか。

阿木 西宮なんかはわりあいうまくいっているようですが、他にはあまりないですね。

水谷 建てる前のアプローチがあつてきたものが少いからでしょうね。高崎の音楽ホールというのは、高崎の音楽運動という長いプログラムがあつてその中から生まれてきたものなんです。ああいうケースが日本の中ではほとんどないですね。ですから建物だけあわてて建てるといったこともないと思つていますが。

阿木 私は今実際に演劇をやっている立場ですので、もう遅すぎてどうにもならないんじゃないかという気がするんです。一日も早く、安く利用できるいいホールがほ



小島輝正氏

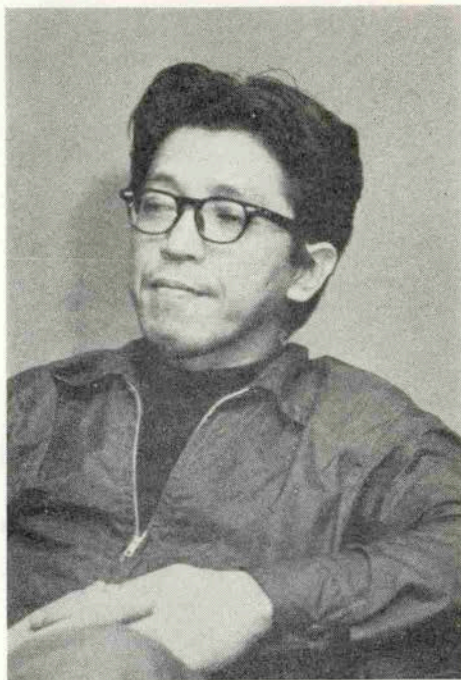
しいです。国際会館は使用料が高すぎますので、私達のまわりにはいいものを多く発表したいというグループがたくさんいるのですが、発表する場も提供してくれる場もないんです。そういう状態なので、せっかく発展していけるものが、何か抑えられているといった感じで、そういうものを助成する意味でも、少しでも早くいい場所がほしいですね。

水谷 新しい市民ホールをいきなりつくるよりも、まず海員会館や繊維会館などを改造して市民ホールにつかおうといった考えもあるようですが、その点いかがですか  
阿木 それもいいんですが、私はやはり手頃な使いやすいホールをつくってほしいですね。海員会館は七百人大くらいですから手頃なんです、奥行きがせまくて舞台としてはつかいにくいんです。今度座席を二百ほど減らしてその分だけ舞台を前へ出してくるそうなんです。

竹中 既存の施設で、他にはどういふところがありますか。

阿木 繊維会館、児童文化会館ぐらいですね。それから葺合の公会堂。これは一九〇人ぐらいしか入れませんし舞台もせまいので、新しい形式のものを実験的にやるぐらいです。あそこは条例がありまして、演劇を四日以上つづけてやれないんです(笑)。それ以上やる場合は興業上の消防法がありますので、別にいろんな装置を備えつけたり、ややこしい手続きをとらないといけないんです。

勤労会館などは安いのですが、なかなか借りられないんです。また、各区に公会堂がありますが、あまり利用されていないようです。といいますのも、利用されるようにつくられていないからなんです。こういつた既存の施設をもう一度機能別につくりなおしてほしいものです。公会堂も皆古いですから何となく見



阿木五郎氏

すばらしい。

竹中 古くても、もとがよくてつかいやすければいいんですがね。中小都市なら事は簡単なんでしょうが、神戸は大都市なもんだから難しい。

小島 大阪ぐらいいまでになればまた別ですが、中途半端な都市ですからね。

#### ★街のストーリーを考えよう

水谷 私は、市民ホールというものをもっと大きな阪神間の文化施設のネットワークとして考えていくのがいいんじゃないかと思えます。大阪に何千人のホールがあるから、神戸にも何千人のを、という大ホール式はやめた方がいいですね。

竹中 地域開発の一環として市民ホールをつくるといっても、あまり大きなものをつくりすぎてそこに人が集まらず、それが利用されなければ地域開発にはなりませんからね。やはり阪神間のネットワークの一つとして考えるというのがいいでしょうね。

水谷 大倉山につくるとしても、大きなのを一つだけだと一カ所につくるんじゃないなくて、港の見える神戸駅の

境の設定をやった上で、どのへんが一番よいかという事を考えないといけませんね。

竹中 使い道にもよりますが、芦屋のルナホールぐらいの規模のものがいいんじゃないんですか。もっとも大神戸市ともあろうものがあまり小さなものはつくれないといった考えもあるかもしれませんね。

水谷 ルナホールの場合にはメインルームだけじゃなくて、下にサブルームもあるわけですから、それもつかえばもっといろいろな事もできると思います。利用者の方にももっとつかい方の智慧があっというんじゃないでしょうか。うまくつかえば大変おもしろく利用できる小さな部屋もいっぱいあるんですが、どうもそれがうまくつかわれてないみたい。メインホールだけに目がいつちゃつて。

#### ★昔は色町に芝居小屋があった

阿木 私は、文化活動においては、ある一つの会場で三日間なら三日間期日を決めて、その間に切符を売って来てもらうというんじゃないなくて、ある場所に市民が憩いを求めて集ってきて、そうして、ホールでは芝居をやっている

裏あたりにも小さなのを一つつくり、この二つを遊歩道で結んで、それぞれが性格の違うものをやるとか、そういった方法が私はむしろいいんじゃないかと思えます。ただつくれば人が集まるだろうというんじゃないくて、港と山を結び形で大倉山の位置づけをはっきりし、ここにつくることにより、神戸の街の中にどういうストーリーが生まれるかということを考えていれて建てていかないとダメですね。そうしないと建物がただ「点」だけのものに終っちゃう。そういう意味で、大倉山周辺につくるのなら、神戸駅周辺全体の街のストーリーに対応した広い環

るからいこうじゃないとか、今日は音楽をききたいいこうとか、そういうふうな形になるのがいんじやないかと思えます。大倉山に建てるにしても、ホールのことだけじゃなく、全体の環境とともに広い文化的な視野に立って市民ホールの位置づけを考えてほしいですね。

**水谷** 商店街やショッピングセンター、レストランなんかもいっしょにつくるといようにしてほしいですね。

外国のように、ピヤホールがあるとかパブがあるとか、そういうものが音楽や演劇とつながっていくようであってほしい。日本みたいに文化会館地区とかいうようなものがあって、夜になってうすぐらいところを通ってトボトボ帰るとか、またわざわざ別の場所へ行かなければお酒が飲めないとかいうのは本来おかしいんですよ。

**竹中** 昔は色町に芝居小屋があつてちゃんとお酒も飲めたんですよ。それを小林一三が間違つて終点に芝居小屋をつくってしまった。あれが間違いのですよ(笑)

へんな健康文化というか、交通重要視文化です。色町とひつついてないといけないんです。色町といっても何も亮春宿のことじゃないんですがね(笑)

**水谷** 市民ホールの場合も、さんちかタウンをつくつた



水谷 顯 介 氏

人達の頭脳を生かして、いかにすればそこに市民が集つて、市民のための広場になるかということを考えなければいけませんね。一流のホールをつくるんならやはり一流のレストランなんかも誘致するようにしてもらいたいです。「あの市民ホールで食事してもまずいからやめよう」と言われるんじゃないかと、「あの市民ホールで食事がしたい」といふようにならなくてはね。そうすれば人も集ってくるでしょうし。

**竹中** 何も高いものでなくてもちゃんとしたものであればいいわけですよ。おいしいラーメンとかウドンなんかでもいい。そういうえば昔の芝居小屋なんかは花街の中につくつてあつたなあ。出たらちゃんとうまいスシ屋やウドン屋があつたですよ(笑)

**水谷** そういう構成は大変たいせつだと思えます。そうならないと本当の街の文化にはならないですからね。

#### ★プロデューサーシステムと独立した運営組織を

**水谷** 私はやっぱり、数千人といつた大ホールはまだ十年あともいいんじゃないかと思うんです。たとえば神戸に「神戸市交響楽団」といったものができてはじめてそれに見合った大ホールも必要になってくるんであつても何もないのにいきなり大きなものをつくつても仕方ない。世界中の国をみても、その街の交響楽団がないのに大音楽ホールをもっている街なんてないんです。全部自分のところに楽団があるからホールをつくつてるんですよ。

建物だけ先に建てちゃつても仕方ないと思うんです。神戸の場合でも本当に文化活動をやろうと思えば、それに対応できる人づくりのための研究機関とか大学とかをつくつていかないとけないですね。文化活動のための人材の開発、育成が必要でしょう。やはり公共施設で一番



たいせつなのはそれをつかう人間なのでですから、そこにプロデューサーをはっきりおいて、それは終身雇用制じゃなくてもいいですから、たとえば音楽ホールなら朝比奈隆さんに三年間だけその運営をすべておまかせするんです。

そうすれば朝比奈さんのメンツにかけても、何もしないで遊ばせておくというようなことはなさらないでしょうから、立派に利用され、そのホールが生きてくる。そういうプロデューサーシステムといったものが必要になってくるんじゃないかと思うんです。

常勤のプロデューサーが決められなければならない非常勤でもいいからはっきりおいてやるべきでしょうね。それからもっと大学と地域の中の施設とが協力しあって、お互いに人材を送りこむとか、研究の場を提供しあうとかすれば、よりいい活動ができるんじゃないかと思えます。

竹中 それはいいですね。

水谷 大阪には大きなフェスティバルホールがあります。あそこでは毎年かならずインターナショナルなフェスティバルが開かれるというのが大きな魅力なんです。ですから神戸に市民会館ができた場合でも、ちゃんと予算をつけてもらって、一年間に、あるシーズンはかならずそのホールの催し物が行なわれるという風にしなないとダメですね。

ホールでそういった継続したプログラムが行なわれているのはフェスティバルホールぐらいじゃないですか。

阿木 あそこにはちゃんと専任のスタッフがいらっしやるんでしょ。

水谷 ええ、いらっしやいますね。やはり何と云ったって村山さんがそのへんの見識をもっていらっしやるんですね。

ホールの運営にたずさわる「人」の問題になりますと、現在の行政機構では無理な点があるんですね。ですからそういうものをつかっていく別の組織をつくらなければいけないんです。利用者としての組織をつくらな

と、管理者だけでは絶対ダメですね。

阿木 今度の市民ホールの場合も、文化事業部といったものを市の行政組織から別に独立してつくって、そこでいろんな企画を考え、運営していくということですね。

竹中 文楽なんかは文楽協会というものがあって、そういう役割を果していますね。

水谷 そうですね。市民ホールの場合もそういう別の独立した組織をつくらないといけませんね。

天下り人事や配置転換でいい人がかわつちやうと、もう運営がいきまるといいうようではせつかくいいものをつくっても何もなりませんから。

神戸の場合の良い例としては「さんちかタウン」がありますね。

あれは株式会社組織ですが、専任の職員がいるのであれだけさんちかタウンを支えているんであって、市民ホールの場合だって同じことだと思いますよ。

小島 市の方に、若い有能な人に思いきってまかせるだけの度量があればきつとうまくいくでしょう。

竹中 「神戸っ子」でも、どういう人が市民ホールを切望しているのかそういう人を発掘しなければなりませんね。

そうして、そういう人の意見を聞いてはじめてどういう市民ホールが必要かというビジョン、つまり水谷さんのおっしゃるストーリーが生まれてくるわけですよ。

水谷 やはり「オール・コミュニティ・アソシエーション」のようなものをつくらないといけないですね。一般の市民も会費を納めてこれに入り、建つ前から建設に至るまでのプロセスのニュースをたえずつかんでいるようにしてはね。市民がたえず関心をもち、市民の間からホール建設の運動が盛り上ってくるようにしたいものですね。

(文責・編集部 オリエンタルホテルにて)

あなたの美しいヘヤースタイルと  
花嫁をつくる 美容室 エリザベス



エリザベス

畑尾 芙久子

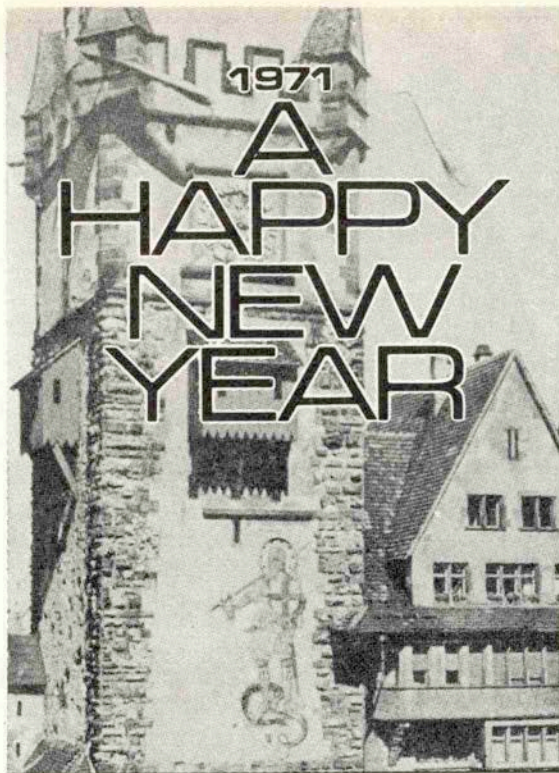
本店美容室 生田神社前新河南ビル2階 <33>8894  
 婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <33>3258  
 三宮店 三宮神社山側三上ビル2階 <33>4917  
 芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <2>4067  
 西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294  
 美容担当(東京初代速藤波津子直流)専属結婚式場  
 生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉  
 学園・蘇州園他



呉邦彦

みよこ

神戸店 大丸  
 電話神戸(33)三四八番  
 大阪店 阪神百貨店三階  
 電話大阪(345)九五八四番  
 姫路店 やまとやしき百貨店四階  
 電話 姫路(23)一一二一番



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

- |            |                         |             |
|------------|-------------------------|-------------|
| ■本 社・工 場   | 神戸市垂水区蘇内町1 (市立美術館東隣)    | TEL 22-1164 |
| ■三宮センター店   | 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) | TEL 33-2421 |
| ■さ ん ち か 店 | 神戸三宮地下街スイーツタウン          | TEL 39-3558 |

婦人服飾とおしゃれ洋品の店

\*ネグリジエ  
\*ブラウス  
\*ランジェリー  
\*コート  
\*セーター  
\*ワンピース



\*アケマシテ  
オメアトウ  
ゴザイマス



スギヤ

- |     |                   |                 |
|-----|-------------------|-----------------|
| 本 店 | 神戸市生田区三宮町3-15     | TEL 078(33)3436 |
| 六甲店 | 神戸阪急六甲駅構内ファミリーストア | TEL 078(87)2731 |
| 東京店 | 東京都豊島区南池袋バルコ地下1階  | TEL 03(987)0567 |
| 大阪店 | 大阪梅田阪急三番街地下1階     | TEL 06(372)4877 |

経済ポケット

ジャーナル

★砂野仁会頭を再選

神戸商工会議所  
神戸商工会議所は去る十一月十日、第一回議員総会で、砂野仁氏(川崎重工業(株)会長)会頭が再選になった。副会頭は、玉井操(玉井商船(株)取締役社長)、市川恒雄(神鋼ファウドラ(株)取締役会長)、竹馬準之助(竹馬産業(株)社長)、嘉納正治(白鶴酒造(株)取締役社長)の四氏が選任された。



砂野 仁氏

なお、砂野会頭は「故浅田会頭が任期中で退任された後、私とその残任期間を継承した一年半は、もっぱら浅田さんの方針(明石鳴門架橋問題、関西新国際空港の問題)を踏襲し、その実現に努力してきたが、七〇年代の最も重要な問題は中小企業問題だと考え、中小企業の人に自覚していただく意味で、企業診断の手引を作成した。



人材の育成の問題について、神戸に貿易大学、または貿易総合学院をつくるよう県、市に協力を願っている」と、就任の挨拶を行なった。

★神戸青年会議所

理事長に木下 健氏  
神戸青年会議所(JC)の四十六年度の理事長と新役員の出選があった。任期は四十六年一月一日から十二月三十一日。新役員は次の各氏。

理事長 木下 健(三富商店社長) 副理事長 玉井新吉(神戸船渠工業社長)、奥 秀雄(健乳舎牧場常務)、寺本 澁(淡路屋常務)、鳥越 哲(神戸眼鏡院専務)



木下 健氏

理事長に選任された木下健氏は記者会見で、「今年で卒業(JCの会員資格は四十才まで)なので、残る

一年を奉仕したいと思って大役を引き受けた」と、抱負として「神戸を住みよい豊かな街に育てること、会員全体が新時代にふさわしい指導者であるよう、会員相互の連帯意識を高めていくことの三項目を推進したい」と。この一年間の若き獅子たちの活躍に期待!

★十二月にオーブン

フェリー総合案内所  
カーフェリーの急増に備え、神戸市が東神戸にカーフェリーの総合ターミナルフェリー埠頭を建設、すでに第四バースを完工し営業している。第三バースも第一バースも今春三月に完工予定。

ところで、神戸市の事業の一環として、あくまで第三者的な立場で、コントロールするよう運営、管理をまかされて生まれた、神戸フェリーセンター(玉井操社長)は、神戸港を基地にしているフェリー会社現

在六社(関西汽船、加藤汽船、ダイヤモンド、四国中央、日本通運、四国フェリー)は、魚崎にある東神戸フェリー埠頭を発着場に九州、四国などに連絡しているが、他航路をもつ加盟希望船会社をあわせると二〇社にのぼる。ジャンボフェリーの時代花やかなりし七〇年代だがフェリーといえは昔の渡し船程度にしか理解されていないお客もあるだけに、利用者への問い合わせに應じる場として、昨年十二月一日に三宮・交通センタービル二階に「フェリー案内所」を設けオープンした。

営業時間は午前九時午後六時まで、問い合わせ電話は〇四七五三〇四。

同社では、業務が軌道にのれば、大阪、京都、名古屋、東京などに各フェリーの交通公社的な総合案内所を設置し、予約受付もできるようにしたいとの事。

★KOBÉ オフィスレディ★



下田陽子 (21)

株式会社神戸商工貿易センター  
総務部総務課秘書勤務

社長(原口忠次郎氏)の秘書として、入社して未だ一年足らず。仕事のなかで、自然に身につけた知恵なのか、美しい目の置き方にも落つきと誠実さを感じさせる。「映画よりもスポーツが好き」と明るく健康的なお嬢さんです。  
垂水区在住 武庫川女子短期大学 45年度卒



神戸駅周辺



手前大倉山公園・体育館 神戸駅への縦の軸

その向うに港が見える



建物が建ったからといって、必ずそこへ人が集ってくる、というわけではありません。

敷地がもつ立地的環境の可能性をひき出し新しい建築が出来上ることによってそこに新しい街の雰囲気をもり上る、という計画・設計のプログラムが必要なのです。

待望の市民会館の敷地が、大倉山に決定されました。その文化機能施設をとりまく環境のアーバンデザインを試みましょう。たとえ市街地の真中の土地であつても、神戸の市街地の場合には、海一港と山一六甲山とのつながりが、たいせつです。また、横に細長い市街地という点からいって、敷地へアプローチする東西方向からの連鎖的つながりが、要求されます。

敷地を中心として、東西・南北の軸を仮設してみました。

まず、鳥原貯水池・平野浄水場などともつないで大倉山の背中の中のイメージをはっきりさせます。大倉山から体育館・湊川公園、そして神戸駅ターミナル、さらに南へ抜けて港の広場を望む高浜、弁天埠頭へのぼしていきます。神戸駅南には、海員会館ホール、電々共済会館をも含めた一つのターミナルスクエアをつくる必要があるでしょう。港では、埠頭機能・倉庫機能との立体化利用による空中広場をつくらなければならないでしょう。東西軸、これは、神戸市街地の山麓文化軸です。新湊川沿岸地帯・湊川公園・医大病院から大倉山へ、東には、生田公会堂・勤労会館・相楽園、そして、北野町の外人住宅保存地区へと連鎖していきます。 <水谷顕介>

神戸のアーバンデザイン  
市民ホールへの提言

水谷顕介＋チーム・UR

④⑥

神戸のモダンリビング

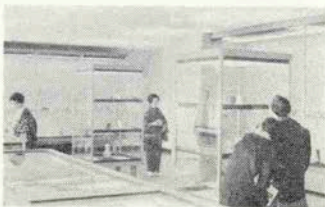
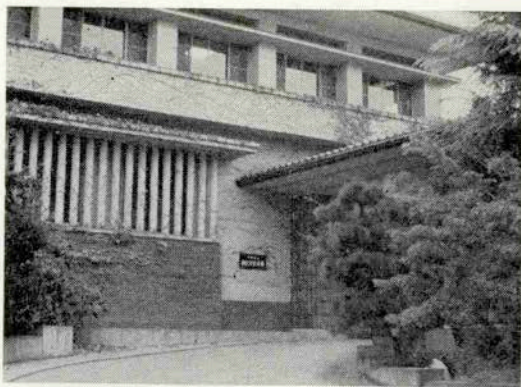
④6

滴翠美術館

水谷頼介＋チーム・UR

阪急芦屋川から山手に7～8分、小高い位置に、滴翠美術館があります。一戸の邸宅として建てられたというこの建物は表玄関、内玄関と分かれた建て方をしている、お客の多いにぎやかな使われ方が想像されます。表玄関からは山口文化会館、内玄関からは美術館へと、今でも入口をわけた使い方がされています。おそらく、4年の歳月をかけたという莫大な費用は、当時としても話題を呼んだことでしょう。広々とした階段ホールや大広間、食堂、書斎、書庫、茶室、居間、等々、数えきれない部屋を見せてもらっていると、現代ではもはや考えられないスケールの一つの家族の生活であったろうと思われます。30数人という使用人の手を借りて働いていたというこの大きなすまいは、現在、その部屋べやが、習字や絵などの教室に、また2階の以前の子供部屋だったところに代々の主人が集めてきた美術工芸品の一般公開ということではじまったこの美術館の展示場が設けられています。無数の名品がしまわれているだろう庭の3つの蔵のそばには、窯があり、若い人々が国籍をとわず集まって土をこねています。

このような多様な活動が、一戸の邸宅の豊かなスケールを土台にして育っていることに、興味深いものがあります。世界に開いた芸術活動の場としても、楽しみです。 <高月昭子>



写真上から、文化会館入口、美術館入口、窯之蔵、2F展示室